



1986年
No. 68

編集
全国膠原病友の会

〒158 東京都世田谷区瀬田5-24-19
電話 03-700-6083

61年度全国膠原病友の会総会 及び医療講演と医療相談会

☆日時

昭和61年11月24日(祝日)

12:00~16:30

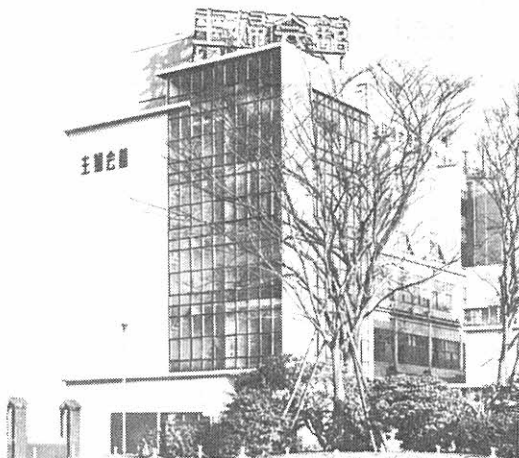
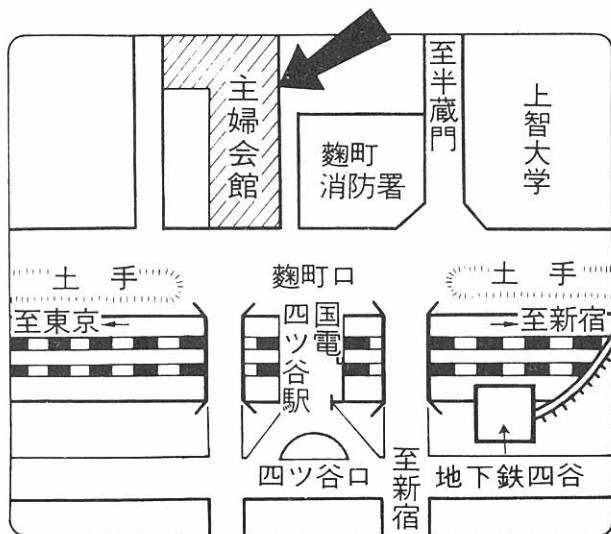
☆会場

主婦会館(表紙写真)1F

東京都千代田区六番町15番地

tel 03-265-8111

国電中央線、バス、地下鉄、→ 四谷駅前



プログラム

★総会 12時～1時

- (1) 開会
- (2) 代表委員挨拶
- (3) 来賓紹介・祝電披露
- (4) 活動経過報告
- (5) 昭和60年度収支決算報告
- (6) 昭和61年度活動方針
- (7) 昭和61年度収支予算
- (8) 役員及び支部代表紹介
- (9) 要望事項決議
- (10) 閉会

★医療講演 1時～2時

『研究班が始まって15年を振り返って』
慶応義塾大学病院
本 間 光 夫 先生

★医療相談・生活相談 2時～4時半
顧問の先生方

★懇親会 (5F) 5時～7時



昭和60年度

活動経過報告

(S60.5.1～S61.9.30迄とする)

昭和61年11月24日(祝日)、東京の主婦会館において開催の運びとなりました今年度の「全国膠原病友の会」の総会は、友の会発足より15年目を迎える時でもあります。

今年は「国際障害者年」の中間年に当りますが、この5年間に私たち膠原病患者とその家族を取りまく社会状況はどうでしょうか。

又、私たち自身もどのように進歩したでしょうか。

私たち難病患者をとりまく情勢は厳しくなる中で「障害年金の改正」では少しその金額は認められて増額された点も見られます。

私たち友の会2,250名(S61年9月30日現在)の仲間と共に15年目の節目を明るく生きる仲間作りを旨として、明日への一步を前進して行くことでしょう。

次の通り活動経過を報告いたします。

活動日誌

(S60.4.12(総会)以後)

☆運営委員会及編集会議

5月27日	本 部	5名
7月 9日	〃	4名
10月 1日	〃	7名
11月19日	〃	5名
12月 3日	〃	5名
1月21日	〃	5名
2月 4日	〃	6名
3月18日	〃	5名

4月 8日 “ 5名
6月10日 “ 5名
7月 8日 “ 5名
9月 9日 “ 6名

☆広報活動

No.63号 8月13日 14名
No.64号 11月 8日 8名
No.65号 3月 7日 10名
No.66号 5月16日 9名
No.67号 8月22日 14名
会員名簿 9月19日 12名
9月25日 14名

☆事務・会計

出席101日 のべ299名

☆其の他の活動

60年

4月29日 全難連総会(新宿) 1名
6月 2日 東京支部総会(障害者福祉会館) 2名
6月16日 全難連(電通生協会館) 1名
6月28日 埼玉リウマチ膠原病懇話会(大宮) 2名
7月10日 厚生省陳情(全難連) 2名
7月30日 東京膠原No.1発送 5名
9月16日 吉川先生お葬式 2名
11月 9日 全難連(電通生協会館) 1名
12月24日 厚生省、大蔵省陳情(全難連) 1名
12月24日 厚生省、大蔵省(患者集会) 1名

61年

1月26日 全難連(電通生協会館) 1名
2月12日 衆議院(全難連) 1名
2月25日 厚生大臣面会(全難連) 2名
3月16日 全難連(電通生協会館) 1名
4月20日 全難連総会(電通生協会館) 2名
5月18日 全難連(障害者福祉会館) 1名
6月19日 NEC、富士通、ヤマギワにワープロ下見 3名
6月22日 全難連(全難連事務局) 1名
6月26日 厚生省(全難連) 1名
7月20日 全難連(障害者福祉会館) 1名
7月22日 会計監査(金井氏訪問) 2名
7月29日 会場下見、コピー機購入 3名
8月31日 全難連(全難連事務局) 1名



昭和61年度における「私たちを取りまく状況」は医療、年金、福祉など社会保障制度の全面的な見直しにより、健康保険制度の改正では自己負担1割を導入することとなり又、老人医療費の有料化等一段と厳しくなってきました。

私たちは「特定疾患調査研究事業」と「治療研究事業」が後退することにならないように、願いながら、会員相互の協力をより結集して各支部と連携し、15年目の意義ある今日心を新に友の会活動をすすめて参りたいと思います。

顧問の先生方をはじめ、ご理解ある協力関係者の尚一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

[会の目的]

本会は膠原病についての正しい知識を高め、明るい療養生活を送ると共に、会員相互の親睦をはかり、病気の原因究明と治療法の確立と社会対策を推進することにあります。

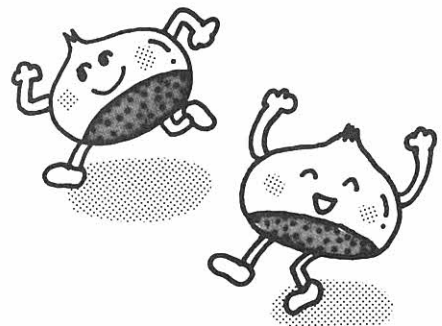
- 1) 膠原病医療講演会並びに「膠原」紙上の専門医師による新たな医療記事によって正しい知識を習得する。
- 2) 医療相談会・生活福祉相談会の開催
 - ・専門医、ケースワーカーによる相談会を開催する。
 - ・友の会事務局において電話・文書による会員の相談を受け、運営委員が研修討議を行なって答える。
- 3) 運営委員会
 - ・毎月火曜日に定例会議を開催する。
 - ・毎週火曜日、金曜日に事務局又は分室に役員が集って事務その他会の運営事項の処理をする。
 - ・会員と情報を交換し、関係患者団体と連携し情報交換を行う。
- 4) 広報
 - ・機関紙「膠原」の発行。
 - ・会員名簿の配布。
 - ・必要資料の配布。
 - ・膠原病診療手帳の頒布。
- 5) 支部活動の推進をはかる。
- 6) 友の会未加入者へのPR活動と事務局体制の強化のための財政強化をはかる。
- 7) 難病・障害者団体、医療福祉団体と連携し共に活動する。

私たちの要望事項

1. 膠原病の原因究明と治療研究の推進強化
2. 膠原病の早期発見と早期治療体勢の確立
3. 膠原病の専門医・専門病院の適正配置
4. 全国ブロックごとに膠原病センターの配置(膠原病科の設置)
5. 差額ベットの軽減および解消
6. 医療保険適用外の付帯医療費の支給
7. 医療費公費負担対象疾患の拡大(シェーグレン症候群)
8. 専門医・保健婦の増員による訪問診療、訪問看護制度の拡充
9. はり・灸・マッサージ・漢方薬など東洋医学の医療保険範囲を拡大し給付期間の制限を撤廃
10. 身障福祉法の拡大と難病患者(膠原病)の援護措置の拡大
11. 膠原病患者を含む内部障害者の更生施設の拡充
12. 働ける膠原病患者の雇傭促進
13. 単身膠原病患者の公営住宅への優先入居

以上 昭和61年度・総会において決議いたします。

全国膠原病友の会



昭和60年度収支決算報告書

S60.4.1～S61.3.31

収入の部	決算額		支出の部	決算額	
繰越金	622,113		助成金	879,000	
入会金	114,600	資料代	会議費	308,552	
会費	4,309,700		印刷費	890,000	
賛助会費	393,000		通信費	673,780	
寄附金	722,460		事務用品費	88,235	
書籍売上	311,245		事務所経費	637,114	
雑収入	13,940		活動交通費	427,890	
受取利息	14,253		分担金	112,750	
署名カンパ	279,678		渉外費	84,408	
			資料費	27,230	
			書籍購入費	316,600	
			什器備品費	108,000	
			雑費	0	
			積立金	600,000	
			15周年基金	1,500,000	特集号
			繰越金	127,430	
合計	6,780,989		合計	6,780,989	

上記の通り相違ありません。
 昭和61年7月22日

会計監査 金井 昭 ㊟
 松本 貞子 ㊟

昭和61年度収支予算案

S61.4.1～S62.3.31

収入の部	予算額		支出の部	予算額	
繰越金	127,430		助成金	900,000	
入会金	120,000		会議費	600,000	
会費	4,500,000		印刷費	1,000,000	
賛助会費	400,000		通信費	700,000	
寄附金	500,000		事務用品費	100,000	
書籍売上	100,000		事務所経費	800,000	
雑収入	10,000		活動交通費	500,000	
受取利息	10,000		分担金	150,000	
			渉外費	150,000	
			資料費	50,000	
			書籍購入費	150,000	
			什器備品費	100,000	
			雑費	67,430	
			積立金	500,000	
合計	5,767,430		合計	5,767,430	

ドクターコーナー



膠原病の基礎療法

— 日常生活の注意点 —

九州大学生体防御医学研究所内科 延 永 正

基礎療法は文字通りその疾患の治療の基礎となるものですから最も重要であります。薬物療法などはこの基礎療法がしっかりしていなければ十分な効果を発揮することはできません。にも拘らず一般には薬物療法にばかり眼が向いて基礎療法がないがしろにされる傾向にあるのは残念なことです。

膠原病は病因、病態に類似性ないし共通性があるところから数種の疾患(慢性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、リウマチ熱、強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎、多発性動脈炎、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、大動脈炎、ウェゲナー肉芽腫症、側頭動脈炎、(リウマチ性多発性筋痛症など)をまとめてこのように呼んでいますが、個々の疾患の病像はもちろんそれぞれに異っていますので基礎療法においても若干異なる点があります。

以下膠原病各疾患に共通する生活上の注意点について私なりの考えを述べてみたいと思います。なお対象は主として外来通院中の患者、あるいは入院を要しない軽症ないし寛解中の患者さんを想定しています。

1. 運動と安静

膠原病はいずれも慢性炎症性疾患です。炎症には安静がよく、運動はマイナスに働くことは風邪や結核などで皆さんも既によくご存知の通りです。しかし安静にしていれば膠原病が治るかといえば決してそうではありません。これも皆さんご承知の通りです。しかも過度の安静は内臓の機能を弱めかえって逆効果であります。特にリウマチなどでは筋肉も萎縮し、骨はもろくなり、関節はかたまって身体障害を作ってしまう。従って適度の安静と適度の運動が必要であることがわかります。どの位が適当かは疾患によって、また病状によって異なりますので、一概には言えませんが、一般には“疲労”を目安にするのがよいと思います。すなわち“きつい”とか“動きたくない”という時には休養した方がよいということです。また仕事をしていて、きつくなったらそれ以上にあまり無理をしない方がよろしいということです。その日はどうもなくても、翌日に疲れがでる、あるいは翌日まで疲労が持ち越すようであれば、それもやはり過労です。一般にリウマチの患者さんは関節が痛むせいか動き足りない人が多く、逆にエリテマトーデスの患者さんは動き過ぎ

る人が多いように思います。

熱がある時、風邪を引いた時なども大事をとって安静にすべきです。

2. 睡眠

安静との関連で睡眠も重要です。不足はもちろんいけません。過剰になるのもよくありません。普通は8~9時間位が適当だと思います。朝起きるのがつらいからといって朝寝をしますと、こんどは夜眠れなくて益々朝寝をするようになり生活のリズムが崩れてしまいます。8~9時間の睡眠で日中疲労を感じずようであれば午前と午後の適当な時間に休憩時間を設けて補うようにすればよいでしょう。いずれにせよ自分に合った日課を作って規則正しい生活をするように心掛けるべきです。

3. 食事

よく食事のことを聞かれますが普通の状態であれば特別のものはありません。ただ血液中の蛋白質(アルブミン)が減少している人が多いので蛋白質は不足しないよう充分とるようにします。動物性、植物性いずれでも結構です。

糖質は痩せている人は多めに、肥っている人は控えます。特に副腎皮質ホルモンを服用している場合には糖尿病になり易いので注意が必要です。一般に砂糖や菓子など甘いものは控えるべきです。いろんな意味で利点がありません。

脂肪も糖と同様体重によって量を加減しますが、飽和脂肪酸の多い動物性脂肪は少なめにします。副腎皮質ホルモンによって血液中の中性脂肪やコレステロールが増加していることが多いし、何よりも血管病変の多い膠原

病では、ますます血管を脆くするからです。これに対して不飽和脂肪酸にはそのような作用はありませんし、逆に動脈硬化を防ぐ作用もあるとされていますので、これを多く含んだ植物油や魚油は大いに摂取して構いません。特に青魚の油に含まれるエイコサペンタエン酸という不飽和脂肪酸には心筋梗塞に対する予防効果の外に抗炎症作用もあるという成績が報告されていますので好ましい食物といえましょう。従って、栄養学的には何も高級な白身の魚でなくても、イワシやサンマなどの安い青魚で結構だということになります。

膠原病の患者さんは副腎皮質ホルモンを使うこともありまして一般に骨がもろくなって骨折をおこし易くなります。従ってカルシウムは不足しないよう充分とるべきです。その意味でも魚、特にイリコのような小魚を骨ごと食べるのはよいことです。

貧血も多くの患者さんにみられる症状ですし、血液中の鉄は大抵減少していますので鉄の補給にも心掛けて下さい。

ビタミンCは副腎皮質ホルモンを作るのに必要ですから膠原病患者にとっては重要なビタミンです。不足しないよう野菜や果物は充分とるべきです。

その他ビタミンDはカルシウムの吸収に必要ですし、ビタミンEはエイコサペンタエン酸などの不飽和脂肪酸が酸化されて有害な過酸化脂質になるのを防ぎますので、膠原病患者にとっては大事なビタミンです。

膠原病では血管炎や腎臓障害のため血圧が高くなることがありますし、副腎皮質ホルモンも血圧を上昇させることがあります。従って食塩は少なめにすべきです。すなわち味つ

けはなるべく薄味にします。

香辛料は少し位は構いませんが、とり過ぎは胃によくないので控えめにします。副腎皮質ホルモンや非ステロイド性抗炎症剤を使いますと胃が障害されることが少なくないからです。同様な意味でコーヒーも過量はさけないと思います。その上砂糖も過剰になります。

アルコールはもちろん飲み過ぎはよくありませんがビール1本か酒1合程度以下でしたらまず害はありませんし、食欲を増し、食事を楽しむようでしたら益の方が大です。

たばこは血管を収縮し血流を妨げるので有害です。益はありません。

以上のようなことから一口に言って結局ビタミンやミネラルの豊富なバランスのとれた薄味の食事がよろしいということになるかと思えます。

エリテマトーデスで腎臓が障害された場合あるいは副腎皮質ホルモンによって糖尿病になった場合には特別な食事上の注意が必要です。主治医の指示に従って下さい。

4. 感染予防

膠原病の患者さんは一般に免疫機能が低下しています。すなわち感染を防御する力が落ちているといってもよいのです。その上治療に副腎皮質ホルモンを使うことが多いので、ますます感染をおこし易くなりますし、また一旦感染しますと治りにくい傾向がありまして、時には死因になることさえあります。そこでなるべく感染しないようにすることが大切です。人混みをさけること、外出から帰ったらうがいを行なうこと、身体を何時も清潔に保つこと、身体を冷やさないこと、など

が注意すべきことです。また感染をおこしたと思ったら(例えば発熱、さむけ、ふるい、などが現われたら)、直ちに医師の診察を受けるとともに安静を守らねばなりません。

5. 入浴

膠原病の患者さんは末梢血流のよくないものが少なくありません。その代表がレイノー現象です。手や足の指が真白になったり紫色になったりするのがご承知のことと思います。手足や腰が冷えるという人もいます。入浴はこのような障害された末梢循環を改善し新陳代謝を高めますので利用してよいと思います。皮膚を清潔にして感染を予防する効果もありますし、リウマチでは関節のこわばりや痛みをとり、機能障害の予防や治療にも役立ちます。その上身、心のストレスを解消し、生活にメリハリをつけ、うるおいを与える効果も馬鹿になりません。通常は1日1回で充分ですが、朝こわばりで身体を動かすのには朝湯もよいでしょう。この時は高温短時間浴(42°C、3分位)が適しますが、夕方入浴する時はぬるめの湯にゆったりと長く(40°C、10~15分間)浴するのがよいと思います。

熱のある時、内臓障害がある時、風邪を引いている時、身体がひどくだるい時は入浴しない方がよいですし、また浴後疲労感が強く食欲が損なわれるような時も控えた方が無難です。浴後は湯ぎめしないように保温に注意して30~60分間安臥休息すべきです。

6. 薬剤に対する注意

副腎皮質ホルモンは自分で勝手に止めたりしてはいけません。たとえ調子がよくても医

師の指示通りに服用すべきです。確かに顔が円くなったり、ヒゲが濃くなったりしますと止めたくなる気持ちも解りますが、急に止めたりしますとせっかくよくなっていた病気がぶり返したり中止したことによって不愉快な症状があらわれたりすることがありますので、必ず医師の指示に従って徐々に減量して下さい。できれば現在何錠服用しているということがわかるように診療手帳みたいなものに記入しておくが一番よいと思います。もし何か事故などに遭ったような場合に診療の参考になります。

非ステロイド性抗炎症剤服用中に副作用があらわれたら、その薬の名前を覚えておいて以後使わないようにして下さい。これも手帳にひかえておくとよいと思います。シェーグレン症候群の患者さんは特に薬の副作用があらわれ易いので、いたずらに売薬などをのまないようにすべきです。また現在何という薬を服用しているのか医師に聞いて名前を憶えるなり手帳にひかえるなりすべきです。そうしますと自分に合った薬が何かということもわかり今後の診療に大いに参考になります。

副作用は常に症状としてあらわれるとは限りません。肝機能や腎機能、血液の異常などは検査をして始めてわかることがありますので定期的な尿や血液の検査は必ず受けなければなりません。特にリウマチで金やペニシリン、免疫抑制剤(これはエリテマトーデスや皮膚筋炎などでも使います)などを使っている時は絶対必要です。

7. その他の注意

悪いことがわかっているものは避けるべきです。日光過敏症があれば当然直射日光はよ

くありませんし、レイノー症状があれば寒冷暴露は症状を増悪させます。しかし実際問題として直射日光をさけることはできても寒冷から完全に逃避することはなかなかできません。従って少しは寒冷に慣れるよう積極的な訓練(たとえば乾布摩擦など)も一方では必要ではないかと思えます。

結婚、妊娠、出産は膠原病の経過にいろいろな影響を及ぼしますので医学的にみても大変重要な問題です。疾患によって、また病状によってイエスカノーかが異なりますので詳細は医師と相談して決めるべきです。自分で勝手に決めるのはよくありません。

8. 療養の心構え

最後に療養の心構えについて述べておきます。膠原病はいずれも慢性の病気です。完全に治癒することはなかなか困難ですので、まず生涯つき合う気持ちでいる方が無難です。たとえ治らなくてもうまくコントロールさえしてゆけば何ら障害はないわけですから、そういう相対的な考えを持つのがよいと思います。何とか治してやろうとむきになると不満が絶えませんしあげくの果ては絶望的になりかねません。

こういう慢性の病気にはえてして民間療法が登場しやすいものです。うまくいかない人づてに聞いたこれらの民間療法に走る気持ちもわからないではありませんが、まず無駄ですし、逆に悪化することさえありますので注意が必要です。

膠原病の病状は決して平坦なものではありません。良い時もあれば悪い時もあります。良いからといって慢心せず悪いからといって悲観することなく医師の支持に従いながらじ

っと良くなるのを待つ態度が望まれます。小さい波に一喜一憂していたのでは精神衛生上よくありません。

以上膠原病の療養ならびに生活上の注意点を述べましたが、これはあくまでも私の意見です。間違っているところがあるかもしれま

せんが何かの参考にして頂ければ幸いです。幸い膠原病の予後は一時期に比べますとはるかによくなっています。この調子で治療が進みますと、いずれ難病でなくなる日もそう遠くないように思います。希望をもって療養に励んで下さい。

支部だより

★東京支部

“東京支部事務局が移転しました”

新事務局

〒113 文京区本駒込3-10-14 河村方
TEL 03-822-4357 (支部専用の電話です)

支部結成当初から今日に至るまでの10年余事務局を寺山あみ様宅にお願いしてまいりましたが、今年度より前記に移転しましたのでお知らせします。

尚、本部事務局は現状通り寺山様宅です。

★広島県支部

秋晴れの9月24日、全国膠原病友の会広島県支部結成総会を無事に開会いたしました。中国地方では初めてです。新聞社が広報活動に非常に協力的で約120名の参加者があり、盛会でございました。西条中央病院院長、山名征三先生に記念講演をお願い致しましたところ快よくお引き受けいただき、膠原病の治療、最近の進歩のテーマでわかりやすくお話し下され、有意義な90分でございました。又患者同士慰め励ましあってその中から生きる希望を見出してゆきたいと願い結成したのですが、目標は広島県にも専門の療養センター建設を会員が一致団結して、国自治体に働きか

け続けて実現させたいと思っています。全国の会員の皆様よろしくお願い致します。最後になりましたが、各方面の方々に絶大なるご協力とご支援いただきこの欄をお借りして厚くお礼申し上げます。

全国膠原病友の会広島県支部
冲政スミエ

★千葉県支部

総会及び医療相談会のお知らせ

日時：11月8日(土)

場所：船橋市西部公民館

講師：皮膚科 岡本昭二先生(千葉大学)
内科 野崎忠信先生(国立柏病院)

問い合わせ：

★鹿児島県支部

11月9日に総会・医療相談会を開催します。
お問い合わせ先は



会員だより

友の会の皆様こんにちは！

私はSLEが発病して3年、去年の3月骨頭壊死になり9月に左側、10月に右側、療法とも骨切り回転手術をしました。

今は壊死の範囲の広がった左側に装具をつけて(坐骨 加)いつか痛みがすっかり消えてくれることを信じて頑張っています。

全国の私と同じ年頃の方、話し相手になって下さい。TELやお手紙お待ちしております。

小 島 百 合 (奈良県)

23才 SLE

○真夜さめて心細さに泣きたきを

おさえおさえて朝を待ちいる

○文通のとだし友の気になりて

ねむれぬ夜半にひとり想いき

○病むわれのつかれ果てたるまなかいに

むくげの花のぬれて咲きをり

糟 谷 すえ子 (東京)

68才 PSS

もうすっかり秋のけはいが感じられる季節になって参りました。

友の会の皆様お元気でいらっしゃいますでしょうか？私も19才で発病、そして24才から現在に至るまでずっとベテランSLE患者の一人になりました。12年目になります。

二ヵ月で治る病気と思っていた病気が長びく慢性の病気ということが判り、この頃はあせるより、じっくり腰をおちつけて病気と共に仲よく生きてゆこうという気持になって参りました。

12年間をふりかえってみますと、実にさまざまな入院生活の苦しみ、楽しみ、病人しか味わえない人間との心のふれあい、あたたかさなど、実感をもって体験致しました。

又今回は“患者とともに”という本を読ませていただいて感謝しています。膠原病という病気がどんなに大変な病気であるか、又どうやって生き抜くことが大切かなど、いろいろと考えさせられ、よいことを多く学ばせていただいております。私の場合でもそうですが精神症状の為に多くの失敗や体験をしております。自殺迄考えたこともあります。何もかも入院中のイライラや、迷惑かけたことも一つのSLEがそうさせたのではと思ひなぐさめております。迷惑かけた先生やナース様方には本当に大変だったろうと反省しています。又私を支えつづけて来てくれた両親、そして家族友人などのおかげです。

そして又膠原病友の会の皆様や現在かかっている先生やナース様方のつながりの中で私も今後も病に負けずに強く生きようと心に決めました。寒さに向うと体調をくずしやすいので少し心配です。

両足股関節骨頭壊死で今痛み止めと両松葉づえの毎日ですが一生懸命がんばって生きています。

皆様も病にくじけずにがんばって生きましようね。この様な私ですが骨頭壊死で手術された方又はこれからされる方がいらっしゃいましたら、どんなことでもいいのですがお便りいただけたらうれしく思います。

どうぞお身体に気を付けてお過ごし下さい。

川 元 フミ子 (宮崎県)

35才 SLE

事務局だより

急に寒くなりました、皆様お元気ですか。
☆名簿が大変おそくなりましたが9月末で全
会員への発送を終ることができました。も
しとどかない方がありましたら本部までご
一報下さい。なお4月以後の新入会員及び
住所変更者は年度末にまとめてお知らせ致
します。

☆11月23日(日)には支部長会議をお茶の
水のファミリーホテルで行います。
各支部長さん方是非ご参集下さい。

又支部設立準備中の県は代表者をお送り
下さる様本部までご相談下さい。

☆61年度総会の資料を膠原に付けておとど
けしますのでご出席の方はお持ち下さい。
又ご意見ご相談のある方は添付の用紙に
お書きの上11月15日までに本部までお送
り下さい。

☆同封のハガキご記入の上11月15日までに
御返送下さい。

☆台湾のお菓にご注意を?

「リウマチに良く効く」と言う台湾から
のお菓をお医者様以外の人からすすめられて
飲んでいる方がありました。

埼玉医科大学の鈴木先生のお話しですとこ
の菓を分析の結果「ステロイド剤」が混入
されていたとのことです。

みなさんおたがいに注意しましょう。

(埼玉膠原より抜粋)

編集後記

- ・ 厳しい残暑が去って秋、そして台風シーズンです。15、16、17号と…………。
- ・ 今回は61年度総会のための「総会議案集」を編集することになりました。
総会に参加出来ない会員のみなさんのご意見も友の会活動に盛り込んで今後の討議事項をより拡大し、役員一同勉強して参りたいと思います。
- ・ 「ドクターコーナー」は先生方の投稿・寄稿によるものです。地方におられます先生方のご協力をお願いします。
- ・ みなさんの「体験」やご意見ご感想をお寄せ下さい。
- ・ お寄せ頂きました原稿は編集の都合上一部割愛する場合がございますので、あらかじめご了承下さいますようお願い致します。

編集委員 森田 かよ子
寺山 ゑみ
河村 真澄
八宗岡 峰起子
中村 静子

